

令和6年度 高速道路調査会 研究発表会(大阪)プログラム

【日 時】 令和6年11月29日(金) 10:00~16:20

【会 場】 AP大阪駅前 APホール (大阪市北区梅田 1-12-12 東京建物梅田ビル)

項 目	時間帯 []内は質疑応答
1. 調査研究事業報告	
公益財団法人 高速道路調査会 事業部長 田之脇 良徳	10:00~10:15
2. 研究発表	
(1)京都大学大学院工学研究科 准教授 澤村 康生 氏 「杭頭部に地盤改良を施した複合基礎における地盤の側方流動に対する抵抗性に関する研究」	10:15~10:55 [10:55~11:00]
杭頭部に地盤改良を施した群杭基礎は、地震時に地盤からの水平抵抗力を期待できる反面、周囲の地盤で側方流動が発生した場合には大きな側方流動圧を受ける可能性がある。本研究では、地震時に矢板式護岸のはらみ出し変位により背後地盤で側方流動が発生した場合を対象として、遠心力 50g 場での模型実験を実施した。その結果、周囲の地盤で側方流動が発生した場合にも、杭頭部の変位および杭に発生する曲げモーメントの両方で低減効果が認められた。	
【休 憩】 11:00~11:05	
(2)山梨大学 名誉教授 西井 和夫 氏 「高速道路 SA における地域密着型サービス提供事業の基本的課題 : 多様な利害関係者の関心と参加のあり方に着目して」	11:05~11:45 [11:45~11:50]
高速道路 SA における地域密着型サービス提供事業について、多様な利害関係者の関心と参加の観点から、SA 利用者現地調査・事業者 WEB 調査に基づく定量分析を行った。利用者ニーズと事業者の関心とは共通的で、「地域情報発信力強化」と「沿線都市のアンテナショップ機能強化」のニーズが高い。また、地域再生や観光まちづくりに資する事業化に向けては、高速道路会社と沿線自治体との事業スキーム構築のためのコミュニケーション機能強化等の環境整備づくりが基本的な課題と言える。	
【昼 休 憩】 11:50~12:50	
(3)神戸大学大学院工学研究科 教授 織田澤 利守 氏 「因果効果の異質性を考慮した高速道路インターチェンジ整備効果の推定」	12:50~13:30 [13:30~13:35]
本研究では、高速道路インターチェンジ(IC)整備が周辺地域の雇用や事業所立地に及ぼす因果効果の推定を行う。1996年から2014年に供用開始された全国の高速度道路インターチェンジを対象として、Causal Forest を用いて、複数の属性情報で条件付けた平均処置効果(CATE)を推定し、効果の分布の特徴や共変量との関係を分析する。主な成果は、ICからの距離帯毎に整備効果の分布を把握した点、IC周辺の地域属性と整備効果の関係性を明らかにした点である。	
【休 憩】 13:35~13:40	
(4)早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 教授 佐々木 邦明 氏 「降雪時の高速道路マネジメントを支援する積雪状態把握と高速道路走行状態の予測に関する研究」	13:40~14:20 [14:20~14:25]
「降雪による高速道路上の車両滞留の予防は社会的な課題である。しかし降雪時の道路の状態予測は車両の特性および降雪状況に依存し、非常に複雑な現象である。本研究ではマイクロ交通流シミュレーションと観測された交通量を用いて、降・積雪状況に観測される交通状態を表現する車両と道路のパラメータの動的推定を行った。これより、観測データに基づいた、立ち往生につながる動きの検出につながる事が期待できる。	
【休 憩】 14:25~14:30	

項 目	時間帯 []内は質疑応答
(5)公益財団法人 高速道路調査会 研究第二部担当部長 市岡 隆興 「高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究」	14:30～14:55 [14:55～15:00]
<p>昨今、情報通信技術の飛躍的な発展に伴い、様々な分野においてビッグデータの活用が積極的に進められており、道路交通分野においても、車両やドライバーなどから得られるビッグデータの活用や技術の検討が進められている。本報告は、今後の高速道路における交通ビッグデータを活用した新たなサービスの提供の方向性について、約4年半に渡る調査研究の成果をまとめたものである。</p>	
(6)公益財団法人 高速道路調査会 研究第二部担当部長 安松谷 隆之 「高速道路での居眠り運転防止対策の効果に関する調査研究」	15:00～15:25 [15:25～15:30]
<p>高速道路運転時における眠気由来の漫然運転の防止に向けた対策とその効果について調査研究を行った。関連事業者へのヒアリングで眠気防止対策の情報収集を行い、また、交通事故統計データの分析により居眠り運転との相関性を整理した。更に、ドライビングシミュレータを活用し、視覚・聴覚情報と眠気度抑制効果の分析を行った。これらの結果から、より効果的な居眠り防止対策について提案する。</p>	
(7)公益財団法人 高速道路調査会 研究第二部担当部長 市岡 隆興 「高速道路の景観史に関する調査研究」	15:30～15:40 [15:40～15:45]
<p>名神・東名高速道路といった高速道路建設の初期から、安全で快適な運転に必要な道路の計画・設計に関する検討を端緒として開始された景観研究は、以後、約60年間余にわたり土木分野での景観の理念とともに実践的アプローチがなされてきた。本報告は、高速道路創成期の「道路景観」の思想の原点を整理、記録すること、およびその後の高速道路建設に伴って実践された具体事例をその当時の社会情勢や国等の動きとともに整理した研究報告である。</p>	
(8)東日本高速道路株式会社 関東支社 建設事業部 構造技術課 中村 優一 氏 「第65回海外道路調査団報告～米国ITS・走行中給電等調査～」	15:45～16:10 [16:10～16:15]
<p>アメリカ合衆国ユタ州の高速道路等における最新のITS技術、交通安全及び走行中給電に関する取り組みを調査するため、ユタ州交通局及びユタ州立大学(ASPIRE センター)を訪問し、現地調査及び意見交換を行った。ユタ州交通局では、建設工事・道路のメンテナンス・交通管理・雪氷対策に関し調査を行うとともに、交通管制センターと雪氷基地の視察を行った。また、ユタ州立大学では、走行中給電実験施設の見学を行った。</p>	
3. 閉会挨拶	
公益財団法人 高速道路調査会 事業部長 田之脇 良徳	16:15～16:20

●CPD/CPDS の「受講証明書」を配布します【リアル開催限定】

会場受付にて、希望者にのみ配布

土木学会認定 CPD 認定プログラム(4.9 単位)/全国土木施工管理技士会連合会 CPDS 認定プログラム(5 ユニット)

●TOP/TOE-CPD 認定プログラム(受講証明書配布無し、各自申請)

一般社団法人交通工学研究会認定プログラム、項目 CO1.(1)として各自 CPD 単位数を申請できます。

＜オンデマンド配信のご案内＞ ※CPD 認定プログラムの対象外です。

【配信期間】 令和6年12月11日～令和7年1月17日(予定)

・本講演会の内容について、アーカイブ動画配信を行います。

・配信期間初日に、メールにてオンデマンド配信についてご案内します。

